



市民一人ひとりの
防災意識の向上を目指して
市長 宮澤宗弘

災害に強い安全・安心なまちづくりは、防災体制の充実と共に、市民の皆さんの防災意識の向上が欠かせません。9月7日の市防災訓練では、多くの皆さんが参加できる自主参加型の一斉防災訓練（シェイクアウト訓練）を行います。1分間、自分の身を守るという訓練ですが、自分自身の命の大切さを改めて認識し、「自助」の力を高め、防災について考えていただけたらと思います。

12月には、市民の皆さんの安全・安心を守る防災拠点となる新本庁舎が完成します。市では、公共施設の耐震化などを進めると共に、「共助」の基本となる区、隣組など地域との連携や自主防災組織への支援などを行い、万一の災害に備える体制づくりを進めていきます。

9月7日(日)市防災訓練

本年は、大規模災害発生直後の初期対応と応急対策を中心に、一斉防災訓練（シェイクアウト訓練）や避難所設営訓練などを行います。訓練への参加のほか、当日は地震体験車や防災グッズの展示もありますので、ぜひ、お出掛けください。

- 時間 午前9時から11時まで
- 会場 堀金総合体育館ほか



市防災講演会の様子

訓練・準備をしたので、自分は絶対に逃げると親に伝えなさい」と教え、自分の命に責任を持ち、全力で避難するようにしました。

その結果、東日本大震災の際、釜石市では、小中学生が自ら考え、行動して避難しました。その真剣な姿に打たれ、今まで警報が出ても避難しなかった高齢者も津波到達前に高台に避難し、多くの命が救われました。

防災教育は「生きる力」を育む
片田さんは、「防災教育は『災い』教育ではない『生きる力を育む』教育だ」と言います。釜

石では、津波被害を伝える記念碑の掃除や高齢者との交流を通じて、子どもたちが地域の一員としての自覚が芽生え、地域づくりにもつながったと言います。

私たちが住む安曇野市は、「糸魚川―静岡構造線断層帯」が縦断し、周囲を山に囲まれ、多くの河川が流れています。片田さんの講演から、私たち市民一人ひとりが自らの命を守り、備えることが当たり前という、起これる想定外の災害への「心」の備えを持つことが、災害に強いまちづくりにつながります。

◎災害に備えて

想定外の災害への「心」の備えを

市では、災害に強い安全・安心なまちづくりに向け、市民の皆さんに防災意識を高めてもらおうと、7月に防災講演会を行いました。今月号ではその内容と9月開催の市防災訓練についてお伝えします。

市では7月12日、堀金総合体育館で本年度の防災講演会を開催しました。当日は、区や自主

犠牲者を一人も出さない 防災体制づくり

防災会の役員、消防団員など約300人が聴講。群馬大学大学院教授の片田敏孝さんが「想定外の災害にどう備えるか」と題して講演しました。片田さんは、東日本大震災での津波からの避難を事例に、日ごろから災害に対して、一人ひとりが高い意識を持ち、自分の身を守ることの大切さを呼び掛けました。

片田さんは、豪雨や巨大台風など最近の気象状況を取り上げ、「今までと違う』『何か変だ』という感覚を大切にして欲しい。経験をあてにせず、考え方を変えましょう」と会場に訴えました。また、経験したことのない「想定外」の災害に対し、まず、「自分の事」と考え、自らの命を守り、どう備えるかが大切だとし、その上で自分の家

族や地域から「犠牲者を一人も出さない」防災体制づくりが必要だと話しました。

避難3原則

最善を尽くして自分の命を守る

岩手県釜石市の事例から

明治や昭和の三陸津波など幾度も壊滅的な被害を受けてきた三陸沿岸。しかし、片田さんが釜石市で津波防災教育に取り組み始める前は、津波被害を伝える言い伝えなども忘れ去られ、警報が出ても避難しないことが常態化していたそうです。

片田さんは、「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者となれ」の避難3原則に基づき津波防災教育を実践。学校では子どもたちに「これだけ



講師
かたたとしたか
片田敏孝さん

群馬大学大学院理工学府教授。東日本大震災の際、岩手県釜石市で多くの小中学生が津波から避難し助かった「釜石の奇跡」。そのきっかけとなった津波防災教育に長年携わる。研究の傍ら全国で指導を行っている。



東日本大震災での津波による被害（福島県南相馬市）